

神奈川県内大学図書館相互協力協議会
平成 13 年度第 1 回実務担当者会

日時：平成 13 年 7 月 19 日（木） 13 時 30 分～16 時 10 分
会場：専修大学 120 年記念館
講演：

(1) 国際基督教大学図書館における新館開館後のサービス：新しい展望と課題
長野由紀氏（国際基督教大学図書館長）

1. 新館建設の背景

一番の大きな要因は、所蔵スペースの狭わい化である。

元々の収蔵スペースの上限は、約 30 万冊であった。

しかし 1990 年、この上限を突破。応急処置として、横浜にある倉庫へ 1 冊 100 円で別置するようになった。それでも 1995 年には、この倉庫管理維持費用が年間 1000 万円（所蔵冊数 10 万冊）を超過。この事が、図書館増設を決定的なものにした。

2. 新館構想と、その実現のための具体案

(1) 書庫の建設

自動化書庫については、4 項で詳述。

(2) グループ学習を奨励する

(3) 学習やコミュニケーションの「場」としての機能

グループ学習室の新設と、近い全フロアを「話してよい」スペースとする。

(4) 総合学習センター（教育用コンピュータセンター）機能のうち、日常的なパソコン利用を図書館でひきうける

(5) 印刷物資料と電子資料を統合して使える環境をつくる

図書館員全員が印刷物資料と電子資料を統合して理解できるようにするため、レファレンス業務を多くの館員が担当する。

国際基督教大学（以下 ICU）版電子図書館サービスは 3 項で詳述。

3. 電子図書館サービス

(1) できるだけ多くのデータベース、電子雑誌を導入する。

ProQuest、SCI Finder Scholar など導入済み。点数を稼ぐため、同時 1～3 ユーザ程度のもが多い。

(2) OPAC の再編

電子雑誌と冊子体雑誌を統合して提供。OPAC から、電子雑誌全文へリンクしている。

システムは丸善の CALIS、相当カスタマイズして使用。

4．自動化書架

(1) 導入の経緯

最大のメリットは、省スペースで収納率が高いこと。

25×50×7 立方メートルの広さに、小さいコンテナ 12000 個を配置。1 平方メートル当たり、約 700 冊収納可能（通常開架では、1 平方メートルに 120 冊前後）。これにより、50 万冊の収納スペースを新たに確保できた。

地震、火災発生時のリスク等、1 年近くかけて検討済み。

(2) 収納する図書の準備

かなりの人数を割いて（1990 年当時 8 人）正確丁寧に目録を作成していたこと、遡及入力終了していたことに助けられた。目録がきちり整備されていないと、自動化書架へ入れたはいいが、機械が所在を突き止められず、永遠に取り出せない可能性があるという。その他、OCR ラベル 30 万冊分を張り替えた。

(3) 稼動に至るまで

取りあえず、横浜の倉庫にあった 15 万冊を搬入。約 6 週間で終了（特別な増員はなし、約 30 名の図書館職員で作業に当たったそう）。

5．新館開館後の状況

(1) 入館者約 30% 増、図書の貸し出し約 20% 増

(2) グループ学習が進む

おしゃべり OK の学習スペースは盛況だが、騒がしいことも確か。

職員の中でも賛否両論あり、継続するかどうかは未定である。

(2) 自動化書庫導入の成果

OPAC と連動したシステムで評判は良い。学内の端末から、オンラインで取り出せる。

(4) 日常的なパソコン利用を図書館が引き受けたため、そのお守りが大変。Word や Excel の質問ばかりなのが悩みの種である。

6．これからの課題

(1) Accountability (説明責任)

図書館が何を指し、どのような方法でそれを実現するのかを明確にする。

(2) 図書館員が学習し、研鑽を積む時間をとり、それを発揮する機会をつくれるかどうか

(3) 図書館員はモノを対象とすると同時に、人を対象とすることができるかどうか

(4) 効果的なプレゼンテーションの技術

(2) 横断検索と図書館コンソーシアム：山の手コンソーシアムの場合

菅育夫氏（明治学院大学図書館）

レジュメは以下の URL にあります。

http://www.meijigakuin.ac.jp/~tosho/opac/tmp/yoko_con.html

特に印象に残った点

・シラバスと OPAC の連動

シラバスに挙がっている参考文献から、OPAC へ直接リンクを張る方法。

それ程頻繁にアクセスがないためか、直接リンクを張っても問題ないそうだ。